

第24回 I P P N W 世界大会 in 長崎開催

38 カ国の医師が集い、核兵器廃絶などを議論

世界の医師らが、核戦争の防止や、核兵器廃絶などに向けて話し合う「核戦争防止国際医師会議」(I P P N W)の第24回世界大会が、10月2～4日に出島メッセ長崎で開催されました。38 カ国・地域の医師たち約350人が核兵器が人体に与える影響や被爆医療の知識を共有し、核軍縮に向けて果たす役割を議論しました。協会から9人が参加しました。

本大会には主催者はじめ「核兵器廃絶国際キャンペーン」(I C A N)、「パグウォッシュ会議」、「日本原水爆被害者団体協議会」を加えた4つのノーベル平和賞受賞団体の代表者らが集うなど、大会に華を添えました。被爆者からは「核兵器の非人道性を明らかにし、世界の核政策を変えていけるように、被爆者の声を聞き、命を預かる医師として議論を続けてほしい」と訴えました。

協会では被爆80年に合わせ、初めて長崎での単独開催となったことから、会員に向けたPRに務めました。最終日の4日(土)に行われたワークショップ「広島・長崎への原爆投下後の黒い雨」は、核戦争に反対する医師の会(P A N W)主催、長崎県保険医協会共催で開催され、本田会長が長崎の黒い雨について報告し、被爆体験者の存在を各国の医師に訴えました。保団連とともに、ワークショップの運営等に協力しました。